

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 農産園芸課長 森上 浩平 電話番号 0852-22-5123

|         |  |  |
|---------|--|--|
| 事務事業の名称 | 島根の活力ある水田農業推進事業  |  |
| 目的      | (1) 対象   | 水稲・麦・大豆・雑穀生産者  |
|         | (2) 意図   | ・地球温暖化に対応した優良品種への転換による高品質・良食味米生産<br>・米の生産調整に対応した麦・大豆・そば等の生産拡大・安定供給 |
| 事業概要    | 水田農業の推進を図るため、水稲においては『地球温暖化に対応した新品種導入の推進』、『優良種子の安定生産』、転作作物においては『麦・大豆等の戦略作物の振興』に取り組んでいる。<br>上記の事項を踏まえ、水田農業の所得を向上させ、水田農業の持続的な発展を目指していく。 |  |

2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 |                           | 年度    | 27年度  | 28年度    | 29年度    | 30年度    | 31年度    | 単位 |
|----------|---------------------------|-------|-------|---------|---------|---------|---------|----|
| 1        | 指標名 米の新品種作付面積             | 目標値   |       | 1,134.0 | 1,702.0 | 2,355.0 | 2,355.0 | ha |
|          |                           | 取組目標値 |       |         |         |         |         |    |
|          | 式・定義 米の新品種「つや姫」の作付面積      | 実績値   | 712.0 |         |         |         |         |    |
|          |                           | 達成率   | -     | -       | -       | -       | -       | %  |
| 2        | 指標名 主食用米の契約的取引率           | 目標値   | 55.0  | 60.0    | 65.0    | 65.0    | 65.0    | %  |
|          |                           | 取組目標値 |       |         |         |         |         |    |
|          | 式・定義 主食用米の播種前・収穫前・複数年契約比率 | 実績値   | 56.0  |         |         |         |         |    |
|          |                           | 達成率   | 101.9 | -       | -       | -       | -       | %  |

3. 事業費

|             | 前年度実績  | 今年度計画  |
|-------------|--------|--------|
| 事業費(b) (千円) | 13,073 | 13,236 |
| うち一般財源(千円)  | 13,073 | 13,236 |

4. 改善策の実施状況

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む) |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- ・米の新品種「つや姫」については、作付推進を図った結果、平成28年産の作付面積は前年に比べ約300ha増加する見込み。
- ・米の食味ランキングで2年連続となる「特A」を獲得したことから卸等からの引き合いが強いものの、需要に応じ切れていない状況である。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- ・島根の「つや姫」マイスター制度などにより、栽培技術の高位平準化を目指した結果、26・27年産と2年連続で米の食味ランキングで「特A」を獲得。
- ・平成28年産に向け「つや姫」マイスターを新規に4名任命し、17名の体制となった。
- ・平坦部を中心に、コシヒカリに比べ、「つや姫」の一等米比率は安定している。
- ・特別栽培米のメリットを販売に活かすため、農業については2パターンまで集約された。
- ・島根県立大学短期大学部と連携し、「おいしさの見える化」に取り組み、パンフ等で活用。
- ・業態別品種別シェア調査を実施し、「つや姫」に対する実需者ニーズが高いことを把握。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- ・実需者からも引き合いも強く、事前契約等にも有利な「つや姫」であるが、平坦部でのコシヒカリからの作付転換が十分に進まず作付が伸び悩んでいる。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・1等米比率はコシヒカリに比べ高いが、年次変動がある。
- ・特別栽培米のメリットを販売に活かすため、肥料についても統一が望まれている。
- ・選別網目の変更に伴い、収量低下が心配されている。
- ・全国的に米需給は改善されつつあるが、米価は依然として低水準である。

③原因を解消するための「課題」

- ・「つや姫」の高品質化に向けた試験研究の結果を栽培指針に反映し、現場での普及が必要。
- ・肥料展示ほを設置し、結果の検証を踏まえた資材統一が必要。
- ・米粒充実化に向けた速やかな技術確立に向けて試験研究、現場で同時に課題を解決していくことが必要。
- ・米価低迷に伴い、農家経営が大変厳しい状況にあることを踏まえ、今後の営農が継続できるような対策が必要。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- ・1. 9mm選別網目・食味計の導入により島根米のレベルアップを図り、平成30年を目途に「売れる米づくり」を一層強化する。米粒充実化に向けた技術確立については、試験研究、普及組織、JA、「つや姫」マイスターが連携し取り組んで行く。
- ・農家の経営安定のため、生産・販売・経営対策を体系化した総合的な支援対策の実施。
- ・「特A」を2年連続で取得した効果を活かすことにより事前契約等の契約的取引の拡大を図り、有利販売に取り組む。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。  
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)